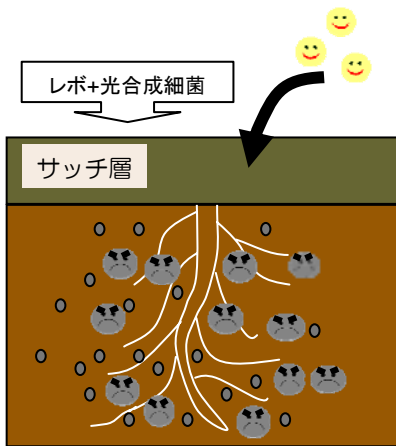


光合成細菌、レボ、マリンパワーによるグリーンの土壌環境の改善

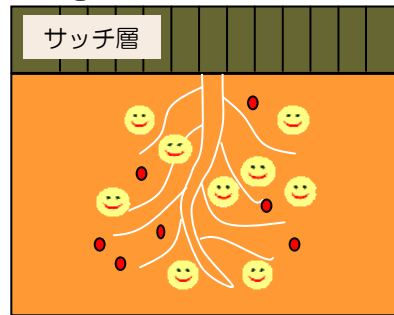
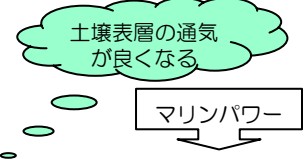
土壌中の根域を攻撃する刺激性物質を除去し、発根に対するストレスを軽減させます

ステップ①

レボ+光合成細菌の散布



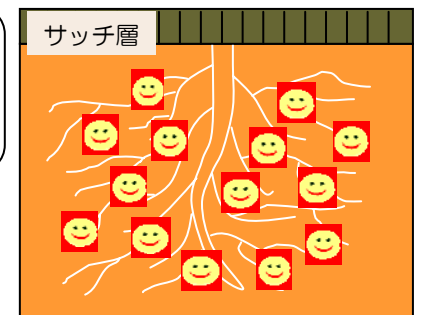
レボの働きで、土壌表層の通気性をアップさせ、光合成細菌の働きで土壌中の悪臭物質(硫化水素etc)を除去する。



ステップ②

マリンパワーの散布

高濃度動物性アミノ酸配合のマリンパワーを散布することにより、土壌中の有用菌を増加させ、根域の活性を高め発根を促進させる。



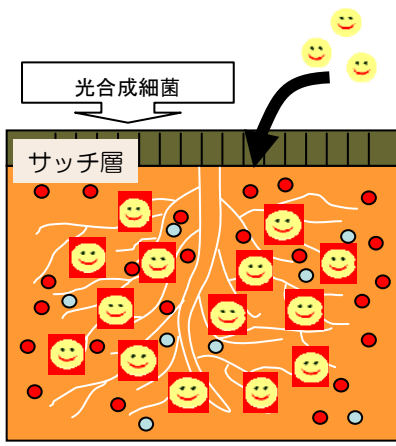
マリンパワーを餌として好気性の有用菌が増殖した土壌

嫌気性菌(悪臭物質を作り出す：硫酸還元菌etc)
 悪臭物質
 光合成細菌
 アミノ酸、ATP

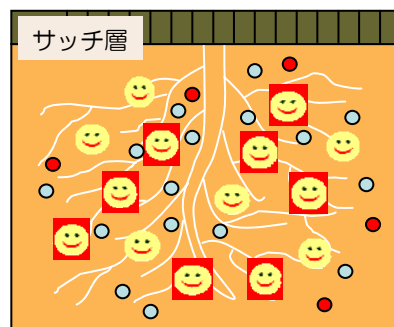
悪臭物質が除去された後、光合成細菌はアミノ酸やATPを分泌し、好気性の有用菌が定着しやすい環境を整える

ステップ③

光合成細菌の適時散布



根域の活性が高い土壌において、好気性の有用菌が排出したCO₂や有機酸を光合成細菌によって消費させる。



好気性の有用菌
 光合成細菌
 二酸化炭素
 酸素

好気性菌が増えすぎて、呼吸により土壌中の酸素が減少し二酸化炭素が増加する

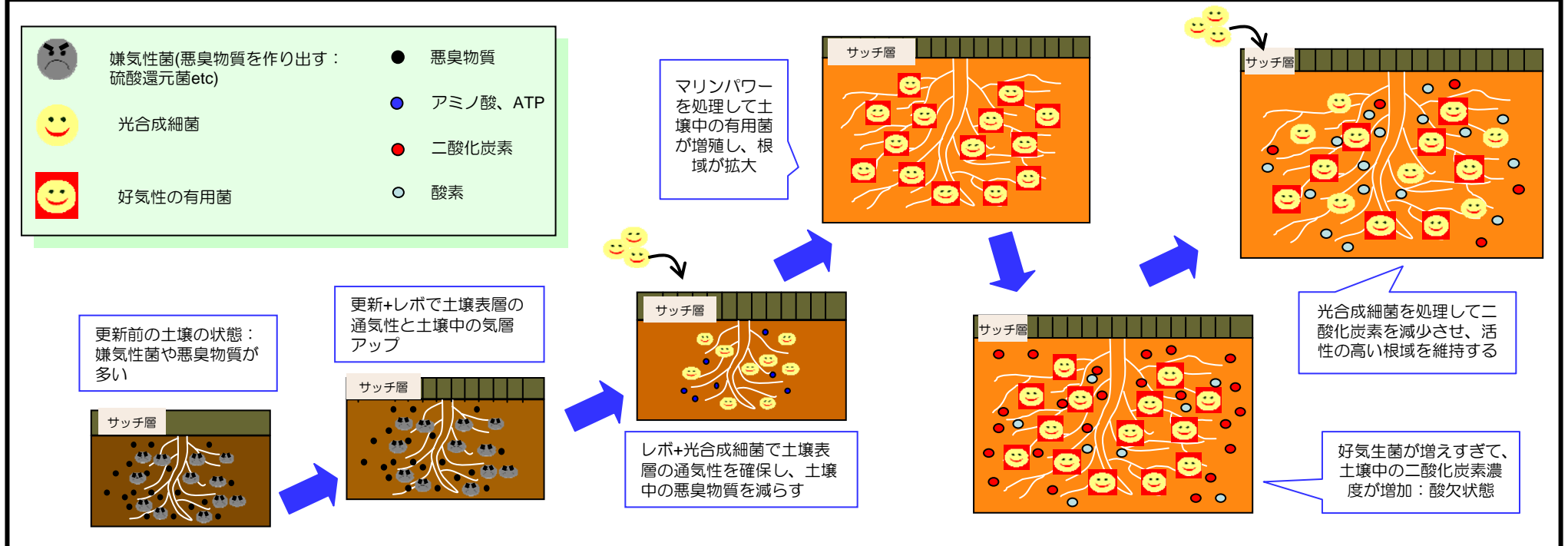
土壌中のCO₂濃度が減少するので、根域にかかるストレスが軽減される

光合成細菌の活用ポイント

有用菌が増加しすぎる夏場などは、呼吸によって土壌中の二酸化炭素濃度が増加し、土壌が酸欠状態におちいるが、殺菌剤等を利用して有用菌を殺すのではなく、光合成細菌を適時処理することによって土壌中の二酸化炭素(CO₂)濃度を減らし、根域の活性を長期間持続させる。

光合成細菌、レボ、マリンパワーを組み合わせた管理シュミレーション

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	生育初～中期	生育最盛期		夏季生育転換期			生育初～終期	



REVO (レボ)	●	●	●	●	●	●	●	
	2ml/m ²	2ml/m ²	2ml/m ²	2ml/m ²	2ml/m ²	2ml/m ²	2ml/m ²	
光合成細菌			●	●	●	●	●	●
			1ml/m ²	1ml/m ²	2ml/m ² × 2	2ml/m ² × 2	2ml/m ²	1ml/m ²
マリンパワー	●				●	●	●	
	2ml/m ²				2ml/m ²	2ml/m ²	2ml/m ²	